

「井戸」― 斉学習⑦

T きのうの続き。

「細かくふるえながら」から感じる人

和幸 細かくふるえながら、やさかいに、丑は緊張してぶるぶるふるえているような感じがする。

T 丑のきんちようが伝わってふるえているような感じがする。

善崇 ほの前に「とうとう麻なわだけになった」やさかいな、よけいにこわい。

T いいねえ。善崇のいうことわかる？

わかったもん手あげてみ。

留美

留美 入る前もこわかったけど、麻縄だけになったさかいに、よけいこわい。

T いいねえ。「とうとう麻縄だけになった」とつなげて考える。

今、丑が頼れるのはたった一本の麻なわだけなんだ。そこにおそろしいほどの緊張があるんじゃないか。

裕幸 丑は、入る時こわかったんやろ。それがとうとう麻なわだけになってな、ぶるぶるふるえたんが麻なわに伝わっている。

T 他にここでいたい人ある？ じゃ、暢子のいつていた「すがっている」

暢子 丑は、始めは体全体が見えたったけどな、だんだん体もすがっている手首も見えんようになったさかいにもっとこわい。

T 丑自身が？ああそうか。自分の体が見えなくなることがおそろしい。

裕幸 「すがっている」てどういうこと。

T あかちやんがお母さんにぎゅつとだきついていてみたいなもの。今、丑はこれだけが頼りなんですから。

で、今暢子の言ったことを逆から考えると、こわいのは、丑だけですか。

Cs みんなも

暢子 まだ上のほうやったら、からだも見えているけど、下の方になると丑が全然見えんようになるで。

T わかる？まつくらななかに縄だけが、ぶるぶるふるえながら、おりていく。

和幸 さつきまで遊び半分やったのがな、かくれてから急に真剣になったみたい。

T おもしろいね。遊び半分どころではなくなってる。だから、見ているみんなもこわい、ということがあるでしょうね。

勇也 先生、この時みんなふるえてるんちゃう。

みんなもふるえてる感じがする。

力 ぼくはこう思うんやけどな、ぼく、ちよつとわからんのやけど。

T 丑がおりていったとき、その上の子たちは、こわいんか。丑をどうみてるのか、ようわからん。

T だから、今和幸がおもしろいこといったでしょ。

おもしろがっていたにちがいないけど、いぎ、暗闇のなかに入っていくのをみていると、みんなだつて気持ちわるいんじゃないか。

力 丑はどうもないかな、ておもつてる子、いるんかな。

T ああ、それはどうかな。おまえはどう思う。

力 ぼくは、おもつてると思う。いぎとなるとよ、

なんでも、今までいじめててもよ、丑どうもないかなあ、てちよつとは思ってる。

T いぎ、やらして、もし丑が死んでもたらどうしよう、てね。

勇也 みんなのせいになる。

T そういう後悔もあったかもしれないね。

「宙にういて」はどう。善崇

善崇 もう後には引けんいうかな、やっぱ。……もう、

T ぶわーんとかぶ。まだ地面に立ってる時はいいんやけど、もう宙にういてしまって、足場もない。

そういう状況から丑がどうかわかっていくか。

(ここまでの話合いでわかったことをノートにまとめる。)

T じゃ、そういうおそろしき、不安でいつぱいの丑がどう変わっていくか。読んでいきます。「丑は二間おり、三間おりていった。……」

「丑はだんだん大たんになってきた。」

大たん、てわかる？

C 気が大きくなってくる。

T そう、気が大きくなってくる。平気になってくる。

じゃ、それはなんでだろうか。こんなにおそろしくてふるえていた丑がだんだん大たんになってきた。

自分の考えをひとかけらでももってください

C (読んで自分の考えを書く)

(全員に意見を言わせることにする。)

亜紀子 まわりの景色にみなれてきたから。

T それは、どこでわかるの。まわりの景色になれてきた、というのはどこから感じるの。

亜紀子 みんな、全部がおんなじけしきばかりやさかいな、なんか、見慣れてきた。

智士 自分は井戸の中にはいったことあるやん。ほんでなれてきたんよ。ほんなにこわくなかった。

T おまえもいっしょやね。前に入った井戸とおんなじや、という気がしてきた、いうんね。

寛子 「先生だの、みんなの声が遠いところからひびいてくるようだった」てな、もう、そこらへんにいつてるさかいな、回りの景色にもなれてきたし、ひとりやさかに。

T みんなから離れて一人になった。だから？

寛子 一人やさかい、大たんになってきた。

T そこ、後で付け加えられる人は言って下さい。

美豊子なんか、自分だけがこんなところに入れるんやなあ、と思ってきて、みんなが弱虫というふうに見えてきて。

T こういうとき、文のどこから考えたかもいつてくれるといいね。

Cs あるある。

和幸 一人になってこわいし、さみしいけど、反対に一人になってさみしいさかに、何にもこわくない、ていうか。

力 ぼくは「ひとりだから」やけど。なんでかというのと、ずっとまえ、丑はみんなからいじめられてる、てこと勉強したやん。ほやさかいによ、もう、みんながいいひんかったらよ、ひとりぼっちやでよ、みんなみたいこわくないわ、とおもってる。

T おまえのいいたいのは、いやなみんなから離れて気が楽になった、ということか。(力うなづく)

和幸 解放された。

大輔 「遠いところからひびいてくる」で、丑がみんなから、いじめられて入らされて、みんなが弱虫に見えてきた。

幸則 丑は今までいじめられてたんやろ。みんなの声が遠いところから聞こえてくるんやさかい、みんなと離れて

留美 もう、みんなの顔も見えへんようになったさかいな、一人になって、もう、井戸に慣れてきた。

智美 一人になって、だんだん勇気がでてきた。

T ひとりになって、覚悟を決めた、ということかな

菜穂子 丑は二間おり、三間おりから、慣れてきた。

T もうちよつと言って。

菜穂子 二間おり、三間おりて、だんだん前の井戸とおんなじように思えてきたさかい。

T ああ、おもしろいね。

善崇 ぼくは、みんなからたいへんなしごとをまかされて、ぼくがいるさかにみんながいかなでもいいんやで、どうや！という感じ。

C 自分を英雄みたいに思ってる

真ひと 後のほうに、「自分が高いところに……」て書いたさかい、自分がえらくなったような気がして。

明子 みんなの声がひびいてきて、なんか、みんな心配してるみたいやでな、なんかじぶんだけが勇気があるみ

たいに思うようになってきて、うれしくなった。

T ああ、響いてくるみんなの聲がこわそうに話している。自分は平気だから、うれしくなってくる。浩生 うんと、前、家の井戸にはいったやろ。この井戸にも慣れてきて、この井戸も同じぐらい佐夜子 だんだんな、おりにいくうちにな、景色もあんまりかわらへんさかい慣れてきたと思う。

T さつき菜穂子が言いたかったのもそういうことね。二間おり、三間おりても、何にも変わらない。力、ただ深いだけや。

真人 遠くからひびいてくるのはな、じぶんが入って、みんなは心配してるけど、自分はだいじょうぶや。

智子 私もまーちゃんとかと似ていて、先生だの……て書いたって、みんなにできなかったことができてうれしくなってきた。

晃典 「みんなの……」て書いたるやん。ほんで、自分は下におりていつてるんやけど、先生とかが近くにくれてるような気がして。

T なるほど。またちがうね。

力 みんなとちがうなあ。

暢子 みんなの聲があまり聞こえてこうへんで大たんになった。

弘子 みんなと遠くはなれて、そこで、気がゆるんではあつとなった。

T 晃と反対だね。

美希 先生が近くにいるようで。

哲郎 一人になると、みんなから、文句いわれんで、気が楽になった。

裕幸 いつもそうじしてる時の水くみしてる気持ちになってる。「へんにうすらつめたくてシーンとしてい」とかな、水くみの時と景色はいっしょやろ。

Cs 景色は水くみといっしょとちがうで。

T 上から見ている時の赤土のかべとか、が変わらない、ということね。

保 みんなの声

もう、みんなは自分のところへ来られへんやん。ほやさかい、なんか、気が楽になった。

勇也 みんなの代表やで、ぜったいとしてみせる。

和美 入る前はこわかったけどな、二間おり、三間おりていくうちにな、前の井戸とおんなじ感じがしてきたな、あまり、こわくなくなってきた。

貞幸 みんなはいつでも丑をいじめてるやん。ほんで、丑は井戸に入って、みんなに言い返してるみたいにはいっていつてる。

(後、これまでの意見を整理して終わる)